

年間第 2 2 主日の説教

金 大烈 神父 2009 年 8 月 30 日 (日)

《生と死について真剣に考え、時間を大切にしましょう。》

お元気ですか？

今日の福音(マルコ 7・1-8、14-15、21-23)の中にはテーマにすべきことが沢山あります。それぞれを取り上げて話すことができますけれど、その中で最後のイエス様のおっしゃった言葉について黙想してみたいです。

『外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出てくるものが、人を汚すのである。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。』そして、みだらな行い、盗みやねたみ等、あらゆる汚い思いや行いを述べられています。このようなことを聞きますと、悲しい気持ちになります。私たちの心から出てくるものがこのような汚いものばかりなのか、がっかりします。

いいえ、そうではありません。今日の第二朗読(ヤコブ 1・17-18、21b-22、27)で、使徒ヤコブは『良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父からくるのです。』と述べています。

このように私たちの中に良いものと悪いものを同時に持っています。わたしたちは人を汚すために生きているのではなく、人を清めるために生きています。人生が楽しく喜びで満たされるためには何より私の心の中にある善意、正義、愛のようなもの、即ち私たちが生まれる前から神様が賜物として下さった心の中の良いことを出して完成させなければなりません。

それでは皆様に質問します。どうすれば悪い思いではなく、良い思いだけを出して、人々を生かし清めることができるのでしょうか。その方法はいろいろあると思いますが、今日は一つの方法を考えてみたらどうかと思いました。

昔、ローマのネロ皇帝の時代(紀元後 54 年から 68 年)に、悲劇の作家でありながら、哲学者とも言われた天才的な人物がいました。その名はルチウス・セネカ(Seneca, Lucius Annaeus)です。彼は紀元前 4 年に生まれ、紀元後 65 年に皇帝ネロの命令で自ら命を絶った人です。非常に頭の良い人でしたが、その時代に政治的な状況によって、ネロ皇帝と合わなく死ぬことになったんです。その人が残した名言が幾つか今でも伝えられています。その中のひとつの言葉を紹介します。

『人間は常に“時間が足りない、足りない”と不平を言いながら、まるで時間が無限にあるように振舞っている。』

どういうことでしょうか？誰かに「何か良いことをしましょう。」と誘われたとき、「今は大変です。余裕がないです。時間がありません。後で十分に満たされたら一生懸命に良いことや教会の活動とかがします。」とか、「少し話し合いしましょう。」と言われたとき、「時間がありません。」また「こういうことをして下さい。」と頼まれたとき、「私にある時間では足りません。」こう言うのが癖になっている人がけっこういます。

大体皆様も度々「時間が足りない、足りない」という言葉を使っていませんか。しかし、私たちはそのように言っているにもかかわらず、自分の死がどこまで近づいているのか、いつ来るのか、自分の死ぬ時、自分がどんな状態になるのかを考えないで生きている気がします。結局、私たちが誠実な人生、望ましい人生を過ごすために、根本的に考えなければならないことは生と死です。死とは私たちにとって何かの意味があるのか、死は怖いことだけなのか、乗り越えられるものか、何が苦しいのかなど実存的な質問を自ら出さなくてはなりません。

イエス様がおっしゃったとおりに、死を希望として受け入れるには何が必要であるのかを考えなければいけません。

生まれてすぐ亡くなっていく赤ちゃんも沢山いて、100歳以上まで生きている方もいます。しかし、同じことは結局死ぬことです。信仰というもの、人生の重みというものは、結局、この死について黙想をしなかったら絶対理解出来ません。ある聖人のように「私は今日を最後の日のように生きます。」という告白のような心と態度を私たち全部が持つ事が出来ないかも知れません。しかし、私たちに与えられるこの時間をもっと意味のある事として深い人生にしたい気持ちがあれば、私たちの信仰生活、人生が今より豊かになるでしょう。死はカトリックの信仰にとって、神が約束して下さった門に過ぎません。結局、死は怖がるものでなくて、神からの約束が成し遂げられるときであることを受け入れなければなりません。この死を考えるとときには今の時間、そしてこれからの全ての時間を大切にしなければならぬという気持ちが自然に私たちの心に出てくるでしょう。

皆様よく考えてみて下さい。私に残っている人生がどの位か分かりませんが、今まで出来なかった事、後悔したことのすべてをやりなおし、もう一回挑戦してみようという心をお持ち下さい。そうでなければ、がっかりしてしまう人生になってしまうのはあたりまえだと思います。

私たちに与えられたこの時間、今も流れています、絶対取り戻すことが出来ません。この時間というものをよく理解することができれば、この短い人生で悪い思いを出して人を汚すことに価値を置いたり、命を賭けたりすることはないでしょう。このように悟りによって、出来るだけ心から良い思いを出して人々を癒し、それによって自分も癒される恵みをいただけるのは確実なことです。無駄に使えば何も無いこととなります。そういう危機感を持って私たちに与えられたこの時間を大切にしましょう。

ありがとうございました。